

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホームあかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18		
自己評価作成日	令和6年4月3日	評価結果市町村受理日	令和6年5月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175800325-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあかるい家は、国道より少し奥まった住宅街の中にあり、静かな環境と自然が多い所にあります。春から秋にかけて散歩したり畑作業を行い、皆様には季節の移り変わりを感じていただいています。施設で地域の方をお呼びして行っているイベントは中止していますが今年度も昨年度と同様、クリスマス会は施設内で入居者様と職員で行いました。また、本年度は中止していた地域のお祭りの神輿見物を行っております。その他、紅葉狩りとして隣町の大きな公園へ出かけております。冬季は室内で行えるゲームなどを行い楽しんで頂いています。ご家族様・地域の皆様・関係機関の方々のご指導・ご協力いただきケアを行わせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々の景色が見渡せ、JR駅近くの静かな住宅地に位置する1ユニットの事業所で、開設21年目を迎えている。町内会やボランティアとの相互交流は自肅中であるが、地域とのつながりを大切にした運営を継続しており、住民や家族から米や花、野菜、手打ち蕎麦などの差し入れがある。建物は平屋建ての回廊式で、利用者は混乱する事なく自らトイレに行く事ができ、また、居間の大きな窓から庭の植栽が目に入り、四季の移り変わりが感じられる。東屋や畑を有しており、利用者が戸外で過ごすための環境も整っている。職員は、センター方式のCシートを用いて本人が何を求めているかを把握し、本人がより良く暮らすための課題を利用者本位の視点に立てて検討している。この度も新たな情報を得て環境を構成し、喜びと自信につながる支援に向けている。事業所内では毎日の体操や個々の好きな楽しみ事をサポートし、外出支援では全員で紅葉見学に出かけ、また、少人数に分けて赴いた秋祭り例大祭では獅子舞や猿回しの見学も叶うなど、五感刺激のある外出の機会となった。町役場や診療所との連携はもとより、社会福祉協議会や消防支署の協力を得て研修や災害対策を推進し、また、JAから車椅子や牛乳券の寄贈もあるなど温かい応援を得ている。毎月、家族へは個別の便りを発信し、日常の暮らしを伝え、食事提供の質も高く、全体的に家族評価も高い状況である。地域社会や家族との絆を大切にし、理念にある暮らしを心を込めて支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が仕事をしていて一番目につく食堂のカウンター上部に掲げ目にする事で確認を行っています。	「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「地域とともに」の理念を標榜し、利用者の安心できる暮らしの実現に努めている。理念はパンフレットに明示し共用空間に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣から、コロナ過でも季節的にお花を頂いたり社協様からの声掛け、贈り物を頂いたり町内会費集金時や回覧板をまわす際コミュニケーションをとっています。	地域住民とは良好な関係性を保ち、運営推進会議への出席の他、野菜や花、米や手打ち蕎麦の差し入れもある。町内資源回収の協力や近隣のコンビニエンスストアへ利用者と一緒に買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で中止にはなっているが過去に地域の中学校の体験学習の受け入れを行い、認知症への理解や学習に生かしてきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度は年1回行っており、ご家族や地域の方からのご意見、情報共有を図っております。	昨年度の開催は、感染症対策に鑑み1回の開催であったが、今年度は開催頻度を推進する予定である。利用者状況、研修、ターミナルケア、認知症カフェ等の議題を元に質疑応答がなされている。議事録を関係者全員に送付している。	事故・ヒヤリハット、職員の入退職状況を会議議事に充足し、構成員や全家族がよりモニターしやすい会議運営に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場・病院・消防とは認定調査、個々の手続き、受診、入退院、火災訓練等に助言・協力・指導を頂きケアの向上に努めております。	町の保健福祉課とは、介護保険制度に係る各種提出書類や運営推進会議に出席を得て情報連携等を行い、住民課担当者も諸書の説明の際に来所している。町社会福祉協議会、南空知消防組合由仁支署、町立診療所の協力等も、運営面や介護サービスの質の向上につながっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	町内で行われた、虐待・身体拘束の研修会に参加したり、法人が行っている身体拘束廃止委員会の資料を基に内部研修を行い、日々のケアの向上に努めております。	身体拘束廃止に関する指針を定め、法人合同の「虐待防止・身体拘束廃止・感染症委員会」を3か月に1度開催し身体拘束等の適正化に努めている。これらに係る研修は、法人合同研修の資料を元にした学習会や町社会福祉協議会主催の虐待（不適切ケア）防止研修に参加し学びを深めている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で皆様に不快な言動や行動がないようスタッフで話し合い考えケアの向上に努めています。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同制度について職員が学ぶ機会が設けられていないのが現状。今後は研修や勉強会を設けて理解を深めていけるよう努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては事前に家族立会いのもと十分に説明・理解・納得して頂けるよう努めている。また意見箱を設置する等、家族が気軽に不安や疑問を伝えられるような環境を整えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の場における入居者の意見や、ご家族の意見をキャッチしスタッフへ浸透反映させるように努めています。また運営推進会議等においても外部の方との意見交換を行い運営に反映しています。	家族に会いたい、乳酸菌飲料が飲みたい、外に行きたい等の利用者からの要望や意向に対し、職員はその都度丁寧に応えている。家族からの一時帰宅や外出の申し出への対応、医療的相談を受け受診につなげた事例がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・申し送りに加えて常時スタッフの意見や提案に耳を傾け、スタッフそれぞれが工夫したことを現場で反映できるよう努めています。	週に1度、運営者と管理者が運営等に係る情報交換を行ったり、理事長が現場に訪れて利用者や他の職員と対面する機会がある。毎月のミーティングでの意見交換や、管理者は日々の中で気軽に職員と話す機会を持ち、働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各事業所を回り直接スタッフの勤務状況や職場環境の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の機会を設け、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他施設の管理者とは虐待防止・身体拘束廃止・感染症委員会に参加して意見交換や情報共有を図っており、出席後は施設職員と情報共有をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は不安で落ち着かない事が多いため、時間をかけてお話を聞き原因を探り、施設内での生活に慣れていってもらいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で家族が困ったり不安に感じていることを伺い、どのような対応ができるか話し合いの場を設けている。本人の希望・家族の希望も十分に伺い、ケアについて話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向に沿って最優先をきめフォーマル・インフォーマルなサービス含めて対応を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の意欲・興味・行動範囲を見極め一緒に行って頂き喜びを分かち合える関係作りに努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を十分把握し状況を連絡し合い、プランに反映させ了承していただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍も明けて、親戚家族以外の方も居室での対応をしておりますが、コロナ等の感染症の流行具合によってはお断りすることもあります。	面会は居室にて対応し、家族以外に友人の訪問のある利用者もいる。希望を受け自宅での整髪や法事に参列した利用者もいる。家族からの電話や手紙の取り次ぎも適宜支援している。空知地方の百年史を購入し利用者と一緒に昔の写真や記録に触れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の入れ替わりにより、前より入居者様同士でお話しされていることが多くなっています。レク等で皆様一体になって楽しませております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内に住んでいるご家族も多いため、利用終了後も外で会うこともあり、その時はお話しをして近況を聞いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	元美容師の娘様に髪を切ってもらいたいと、お願いされる方コロナ禍で難しい時もありますが達成された時の皆様の笑顔は最高です。	職員は、利用者の要望や意向を把握しその都度、対応している。利用開始前より馴染みである医療関係者から本人が好きな事の情報を受け、今後の支援に結びつけるなど、喜びや生きがい、笑顔になる暮らし方の検討に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から服薬していた薬が副作用でせん妄が出てしまうということで、医師に相談して処方をやめていただき、関わり方を工夫することで利用者様には納得していただきました。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人で新聞・雑誌・テレビ観賞を好まれる方には静かに見守りをさせて頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人に聞きながら日々の介護の課題をスタッフと共有してアイデアを出し合いプランに繋げています。	毎月のミーティングで利用者全員のカンファレンスを行い、状態像を分析して課題分析(アセスメント)概要シートを更新している。センター方式の心身の情報シートを活用し、安心できる暮らしのための介護計画を策定している。	利用者と家族の願いや意向を大切に考え、支援を行っている実際があり、第1表の「利用者及び家族の生活に対する意向」の記録をより充実させる意向であるので、実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書と連動した個別の生活行動記録に実践・結果・特変等の情報を連絡ノートに記載しスタッフに周知。ミーティングで話し合いプランに反映。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせ家族・医療・地域等に、ご協力頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様との関わりは現在も玄関先だけの、ふれあいとなっておりますが、互いの安否は確認できています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけを継続。お二人の方が家族の意向で訪問診療を選択しています。町内はスタッフ同行しております。病状により、ご家族と一緒にいくこともあります。	利用者全員が協力医療機関である町立診療所をかかりつけ医としており、往診を受けている利用者もいる。歯科や専門他科受診も職員が対応し、状況により家族も同行する場合がある。医療等に係る記録を整備し、医療者や家族との情報連携に努めている。	

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時は24時間体制での連絡、通常は週1回の勤務、月1回の内部ミーティングなどで、相談・処置指導・助言いただきながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的受診時医師・看護師とのかかわりを意識して重ね、入院後は面会に本人・医師と行い経過の聞き取り何気なく受け入れ態勢をアピールし、退院時期を促すように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針」の説明に契約書で同意を得ている。過去に三名の方の看取りを訪問医師とのご協力させていただいた。その時期があったら新たな気持ちで支援させていただきま	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し同意を得ている。状態変化時は医師の判断に基づき関係者間で協議を重ね、今後の方針を取り決めている。重度化を迎えている利用者へは、養生と生活のバランスも加味しつつ介護支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・転倒等の事故発生後はその月もしくは次の月のミーティングで資料を用意してスタッフ同士で情報を共有し、備えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震を想定した避難訓練を行っています。非常時に備えた備品の確保・管理するリストを作成。町内で指定された避難場所のスタッフへの周知等すぐにわかる状況に揭示しています。	令和5年11月地震・火災の避難訓練、令和6年3月は火災避難訓練を行い、双方、夜間を想定し、消防の指導を得て実施している。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画を策定している。	地域住民(災害時協力者等)の参加を得た、避難訓練の実施に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、よそよしくならず親しみを持って相談していただける様な関係性を築いております。	接遇や不適切ケア研修を通じ、馴れ合いの中で生じてしまう言葉使い等について、注意を向けている。理事長の指導を得たり、ミーティング時に啓発するなど、適宜、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話を傾聴する機会を作り、会話の中から本人の希望を引き出し自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の入れ替わりにより、前より入居者様同士でお話しされていることが多くなっています。レク等で皆様一体になって楽しませております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際はご本人に選んでもらうようにしております。意志表示が難しく着衣の厳選が困難な方はスタッフが用意しています。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の野菜・魚などが取り入れられ、行事にそったメニュー・家庭菜園の時期には収穫・下処理も一緒に行う。お膳・箸・配膳・食器拭き・お盆拭き・テーブル拭き等出来る力をお借りして皆様と行う。	栄養バランスや季節感ある献立で、畑の収穫物やお裾分けの食材も活かし、彩り良く提供している。季節行事食も工夫を凝らしている。運営法人からオードブルや生寿司、果物や菓子など、折々の機会に差し入れがある。10時と15時のおやつも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患と年齢、食欲を把握し水分量、食量、職員統一して提供。日々の記録記載。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯洗浄、うがい等の口腔ケア支援、全介助はガーゼ、スポンジでのケア、自立されている方も確認・声掛け行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は小パットを使い排泄パターンをそれぞれ把握しトイレでの排泄を重視しております。	重度化の利用者はベッド上で排泄用品を交換する日もあるが、職員シフト状況によりトイレでの排泄を介助する日もある。自らの意思で迷うことなくトイレに行く利用者も多く、誘導が必要な利用者も拒むことなくスムーズな排泄となっている。生活行動記録・排便チェック表に排泄状況を記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表活用し、個々の排便の状態を把握し情報共有している。食材・献立・おやつ・水分量に気を配るも自然排便困難時は担当医から処方を受けている下剤で調整。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外の毎日、午後から週2回入浴して頂いている。現在拒否する方はいない。	職員の「お風呂です」の声かけに利用者は快く応じ、好みの湯温や入浴剤を入れた湯に浸かり、入浴中の会話も楽しみとなっている。湯船に入るのが難しい利用者が1名いるが、足浴で温めつつシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間で時間までテレビを楽しむ人、部屋でテレビを見ている人、遅くまでトイレに何往復もされる人等それぞれの安心される時間があり見守りながら確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・用法・用量を把握し、処方内容・副作用は受診記録で確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域がら農家の方も多いため春先から家庭菜園の苗植え・水撒き・草むしり・収穫までをお手伝いして頂き屋外を活動で気分転換をしていただいております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍も明け、今年度は秋に全入居者様とスタッフで隣の大きな公園へ紅葉狩りへ出かけたりして、外出の機会を持てるような工夫をしています。	事業所前の東屋で、とちの木などの植栽を眺めつつの外気浴や散歩で近隣にある桜並木の開花の風情も味わっている。昨年は、栗山公園の紅葉見学や紅葉狩りに全員で出かけ、また、少人数に分けて栗山町秋祭りの例大祭に出かけ、猿回しや獅子舞の見学も叶い、更に楽しい外出となった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との連携で、現在は小銭でも預かりとさせていただきます。問題が多く発生したため。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話でお話することが可能な方は数名おられ、遠方の御親戚の方から電話があった際にはお話しされています。ご家族等が来られた際は居室にて面会されています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室は居間などから見えにくい場所にあり、居間・廊下に面している居室は暖簾でプライバシーに配慮。居間の大きな窓から見るとちの木は、春から夏には芽吹き・開花、秋からは葉が落ち、冬には雪景色が見え季節を感じる事が出来る。	建物内は家庭的な雰囲気のある造りで、共用空間の居間は庭の植栽が目に入る大きな窓に面し、四季の移り変わりが居ながらにして感じることができる。ダイニングコーナーの他、全員が座れるソファを配置している。新聞以外に雑誌を定期購入しマガジラックを備えて好きな時に読めるようにしている。全体的に清掃が行き届き、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にあるソファやダイニングテーブルで入居者様がやりたい事を思い思いにされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からの馴染みの寝具類、生活用品、家族写真、等を準備されたり、安心されて過ごされますように、お部屋の入口には暖簾を下げプライバシーに配慮させていただきます。	居室にはベッド、クローゼット等の備え付けがあり、使い慣れた寝具や家具、調度品を持ち込み、愛着のある品々や写真が置かれている。後々の持ち込みも意向に応じて対応している。利用者本人が洋服を管理しやすいようにするなど、適宜、環境を構成している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーで障害物は置かず手すりを壁側にぐりと配置され安全な歩行が可能、車いすも自由に行き来できます。居間は広く窓は大きく日差しが射し込んで明るいです。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあかるい家

作成日：令和 6年 5月 1日

市町村受理日：令和 6年 5月 2日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	利用者と家族の願いや意向を大切に考え、支援を行っているが、第1表の「利用者及び家族の生活に対する意向」の記載が少ない。	ケアプランの第1表の「利用者及び家族の生活に対する意向」の記録を詳細に記入する。	本人への生活に対する意向を聞き取るとともに、ケアプラン更新月と訪問時に家族からも意向を聞き取り、「利用者及び家族の生活に対する意向」の欄に記載していくようにしていく。	随時
2	4	運営推進会議の内容をより良いものにしていく。	今までと異なるテーマを増やし、充実した運営推進会議を行う。	事故・ヒヤリハット、職員の入退職状況を会議議事に充足し、構成員や全家族がよりモニターしやすい会議運営を行っていく。	次回開催時
3	35	避難訓練を外部の協力者と一緒に行う。	地域住民の参加を得た避難訓練を実施する。	地域住民の協力をお願いし、避難訓練の開催日時の調整などを行い、参加協力してもらえるように工夫していく。	次回開催時
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。